石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第384号　平成27年10月1日発行

北陸新幹線開業記念 没後30年

鴨居 玲 展
踊り候え

鴨居玲《出を待つ(道化師)》
―鴨居玲展 踊り候え―より

■ 特集 芳春院まつ

■ 秋の優品選 古美術

■ 秋の優品選 工芸

■ 季節を想う･風景を謳う

- 情報･図書コーナーより
- ミュージアムレポート「夏休みキッズプログラム」
- 10月からの土曜講座
- 10月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

1F企画展示室

北陸新幹線開業記念 没後30年

鴨居 玲 展 踊り候え

主催／石川県立美術館　共催／北國新聞社　協力／公益財団法人日動美術財団

9月12日（土）～10月25日（日） 会期中無休

鴨居玲は金沢で生まれ育ち、金沢美術工芸専門学校（現金沢美術工芸大学）で、宮本三郎に師事した画家です。しかし、鴨居家の出自が長崎県であり金沢は父悠の赴任地であったこと、一家が父の死後すぐに金沢を離れたこと、さらに国内での転居にとどまらず、スペインをはじめとする海外での生活が長かったことなどから、鴨居を金沢の画家として見る向きは少なかったのではないでしょうか。それでも、二十年以上をすごした金沢の風土が画家としての鴨居にもたらした影響は本人も認めているところで、「北国の厳しいところに育った影響が大きいと思いますね。」と述べています。やはり「金沢出身の鴨居」なのです。

当館は鴨居玲出身地の美術館として数多くの鴨居作品や、その他の資料を所蔵しています。今回は他の巡回会場では展示できなかった作品や、遺愛の刀剣など初公開となる資料を二階第3展示室にて「もう一つの鴨居玲展」としてご覧いただきます。アトリエに残された制作途中の作品も多く、制作の段取りや構想の一端も知ることが出来ます。本展と合わせてお楽しみ下さい。

■イ・スンジャ「望郷を歌う」

「望郷を歌う（故高英洋に）」のモデルとなったイ氏がアリランを歌うと共に、制作中のエピソードを語ります。

日時／十月二十四日（土）午後二時より約一時間
出演／李順子（イスンジャ）氏
会場／当館一階ロビー　入場無料

■ギャラリートーク

担当学芸員による展示室での作品解説
毎週日曜日 午前十一時より約一時間
会場／一階企画展示室
※企画展観覧料が必要です。

◆料金表

一般	一、〇〇〇円（八〇〇円）
大学生	八〇〇円（六〇〇円）
小中高生	三〇〇円（二〇〇円）

※（　）内は、二〇名以上の団体料金です。当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金に割引されます。

鴨居玲《踊り候え》1979年

鴨居玲《風》1972年 金沢市

学芸員の眼

本展は東京を皮切りに函館、金沢、伊丹を巡回するものです。七月に閉幕した東京会場は大変多くの方の来場があり、中でも若い人の姿が目立ちました。没後三十年を経てなお、鴨居の世界に魅了される人が増えていることに驚かされます。内面を掘り返すことで、赤裸々に自己を投影した作品世界。そこに魅了された人が多いのかもしれません。

しかし、そんな鴨居の自画像にも、実は一箇所本人と違いを感じるところがあります。それは小鼻。鴨居本人はひろくはった小鼻が特徴的ですが、絵では控えめに描かれています。「ハンサムだけど三枚目を演じ、でもやはりナルシスト」というパーソナリティが滲み出ているようで興味深い。本展図録の表紙を見開きでご覧いただくとよくわかります。

前田育徳会尊経閣文庫分館

芳春院まつ

9月12日(土)～10月25日(日) 会期中無休

展示の概要を前号で紹介しましたので、今回は展示の中心となる《まつの消息》について紹介します。まつの自筆消息は、前田育徳会に約五〇通、射水市新湊博物館に四十四通、お茶の水図書館成簀堂文庫に十六通、前田土佐守家資料館に五通をはじめ、現在約一三〇通が知られています。また、写本が『加賀藩史料(芳春院君親筆写)』(前田育徳会所蔵)と『村井家文書』(金沢市立玉川図書館・加越能文庫所蔵)に約二八〇通あり、重複を除くと約三五〇通と言われます。そしてこの膨大な消息は、慶長四年(一五九九)に利家が亡くなって後の、まつが芳春院として生きた時代のものであり、その大半が、七女千世(春香院)とその夫村井長次に宛てたものです。芳春院は晩年の慶長五年から十九年(一六〇〇～一四)まで十五年間という長期にわたり、加賀藩を守るために人質として江戸へ下向しています。江戸において情報収集をしながら家臣たちへ発信する一方で、利長や利政をはじめとする家族への心配など、公私にわたる心遣いが流麗な散らし書きで記されています。金沢へ戻って後の最晩年、元和三年(一六一七)に上洛します。その際の消息では、無事に京都へ着いた報告に始まり、次男利政夫妻に再会し、大徳寺芳春院に師を訪ね、高台院と旧交を温めたことなどを千世に伝えていますが、一方では薬を服用していることや、暑さで食事が進まず横になっているなどの不調も伝えています。そして金沢へ戻り七月十六日に波瀾万丈の七十一年を終えましたが、利家とまつが築いた「家を守る」という信念は、三代藩主利常に確かに受け継がれていきました。

短刀 銘「備州長船春光」 伝芳春院所用

第2展示室

秋の優品選 古美術

9月12日(土)～10月25日(日) 会期中無休

前号に続き、あと一点重要な作品を紹介します。それは「蒔絵梅鉢紋女儀御輿」(県文)です。この作品は、加賀藩細工所で制作されたと伝えられるもので、加賀藩十四代藩主・前田慶寧の六女、貞姫が、生後三ヶ月で金沢市内の専光寺に養女として入寺した際に使用されたものです。黒漆塗地に、金の高蒔絵で加賀藩の紋所である梅鉢を規則的に配し、地の部分を薔薇唐草文で埋めることによって際立たせています。内部には、金地に濃彩で「琴棋書画図」が松竹梅、鶴亀などとともに描かれ、しかも子供を多く登場させています。ここから、娘が家格に相応しい教養と徳を身につけ、幸せで長寿を全うし、子供にも恵まれるようにとの藩主の願いを読み解くことができます。旧館時代から親しまれてきた作品ですが、新館となって大々的な修復が施され、往時の姿が見事によみがえりました。

そして今回の展示作品で改めて注目していただきたいのが、久隅守景作「四季耕作図」(県文)です。今秋は、東京のサントリー美術館で十月十日から十一月二十九日まで「久隅守景」展が開催されることもあり、久隅守景が再認識されています。石川県立美術館では、六年前に「久隅守景展 ―加賀で開花した江戸の画家―」を開催し、好評を博しました。同展のサブタイトルにもあるように、文化により江戸幕府に挑むという加賀藩が推進した文化政策が、幕府の御用絵師・狩野探幽の門を離れた守景に、新たな活躍の場を与えました。今回の「四季耕作図」は、守景が伝統的な画題にどう向き合ったかを知る興味深い作例といえます。

訂正:前号で紹介した清光の刀剣のうち、「刀 銘 加州住藤原清光」は古刀期の作と判断されましたので、現在は「刀 銘 加州金澤住藤原清光作」が展示されています。

県文 伝加賀藩細工所
《蒔絵梅鉢紋女儀御輿》(内部部分)

第5展示室

秋の優品選 工芸

9月12日(土)～10月25日(日) 会期中無休

今回は「菊」をモチーフとした着物を三点展示いたしました。いずれの作品にも独自の技法が用いられ、その違いをお楽しみいただきたいと思います。

羽田登喜男《友禅薄茶地金銀摺箔花びら散文振袖「響秋」》は一見、大輪の花火のよう。地の独特な縞模様は、「一珍(いっちん)友禅」という技法によります。一珍糊という粘度の低い糊を用い、生地を斜めに引っ張ってかき落とすことで、水洗いしたときとは違う、さざ波のごとくゆるやかな亀裂が生まれます。さらに贅沢な摺箔も見どころです。

羽田の作品が一輪の菊を描いたのに対し、森口華弘《友禅訪問着「白菊」》は白菊が群れ咲き誇るさまを表現しました。「蒔糊」という作者独自の手法が見られます。まず糊を竹の皮に塗り、乾いてはがれ落ちたものをすり鉢で砕き、それを生地の上に蒔いてから、引き染めを行っています。ちょうど漆面に金粉を蒔いたときのような、繊細で独特な風合いが特徴です。

そして江戸小紋で重要無形文化財に認定された小宮康孝の《江戸小紋菊通し着物》は、小さな菊がつらなって、格調高く品のある作品です。ガラスケース越しにはそれとわからないほどの繊細な文様が、小宮の卓越した技術によって丁寧に押されています。写真パネルにて、文様をじっくりご覧いただけるように展示いたしました。

いずれも落ち着いた色合いながら、熟練した技法が際立つ名品です。すてきな秋の装いを、ぜひご覧くださいませ。

森口華弘
《友禅訪問着「白菊」》

第4・6展示室

季節を想う・風景を謳う

9月12日(土)～10月25日(日) 会期中無休

誰しも、一日を終えた家路で、ふと見上げた茜空に目を奪われたり、初めて訪れたはずの街並みに何故か郷愁を覚えたり、そうした記憶があると思います。このように風景を見たときに起きる感動は原初的であり、風景を描くことは古来人々の営みとしてなされていたように思えます。しかし、西洋において風景画のジャンルとしての成立は十五世紀に入ってからであり、画家が戸外で絵画制作をするようになったのは十八世紀に入ってからです。そしてケネス・クラークが述べるように、風景画が「主要なる芸術創造」としての地位を占めるようになるのは十九世紀です。対して東洋において風景画の歴史は古く、十一世紀には中国で山水画の完成をみます。その様な下地を持つ日本の風景画は、おのずと西洋のそれとは異質なものとなりました。

さて第4・6展示室「季節を想う・風景を謳う」の展示作品から、風景画をみてみましょう。《大地と集落》は、もともと社会派の作品を手がけていた森本仁平の作品です。アンバー調でバルビゾン派を思わせる作風は、風景と人の営みがとけ合い、作者の慈愛のまなざしに溢れています。稲元実《武蔵野》は秋草の生いしげる地上からみた満月を描いています。やまと絵のモティーフとなった武蔵野図からの着想がうかがえます。彫刻では《パリーの女》から風景を感じて頂きましょう。女性像の背景に作者吉田三郎の目に映ったパリの風景がみえるようです。

吉田三郎《パリーの女》

情報・図書コーナーより

9月12日（土）より開催されている鴨居玲展にちなみ、当館が所蔵している鴨居玲関連の書籍をご紹介します。

※雑誌類は省略しました。開室時間は午後1時～5時。貸出し、コピーサービスは行っておりません。

■叢書

『灯叢書 第三十五編 回想・鴨居玲』伊藤誠著／平成五年／豆本〈灯〉の会

■単行図書

『鴨居玲素描集 酔って候』　昭和五十四年／神戸新聞出版センター

『鴨居玲素描集』　伊藤誠著／昭和六十三年／日動出版部

『踊り候え』　鴨居玲著／平成元年／風来舎

『一期は夢よ 鴨居玲』　瀧悌三著／平成三年／日動出版部

『鴨居玲』　富山栄美子撮影／平成七年／ワイ・ティー・エム

『鴨居玲画集』　平成十二年／俵万智著／日動出版部

『哀しき道化師 鴨居玲の絵画と生の軌跡』　牧野留美子著／平成十五年／神戸新聞総合出版センター

『回想の鴨居玲「昭和」を生き抜いた画家』　伊藤誠著／平成十七年／神戸新聞総合出版センター

『鴨居玲 死を見つめる男』長谷川智恵子著／平成二十七年／講談社

■展覧会図録 ※は当館で開催

『鴨居玲展 私の村の酔っぱらい』　昭和四十八年／日動画廊

『鴨居玲展』　昭和五十一年／日動画廊

『鴨居玲LOVE展』　昭和五十五年／日動画廊

『鴨居玲展』　昭和五十七年／日動画廊

『鴨居羊子・鴨居玲二人展』　昭和五十九年／那美画廊

※『鴨居玲展』　昭和六十二年／鴨居玲展実行委員会

※『没後一〇周年記念 鴨居玲展』　平成七年／鴨居玲展実行委員会

『長崎ゆかりの作家たち 鴨居玲と羊子展』平成十年／長崎県立美術博物館

※『没後十五年 一期は夢よ 鴨居玲展』　平成十二年／北國新聞社

『鴨居玲と羊子展 神戸の風が育んだ姉と弟』平成十三年／神戸地下街

※『没後二〇年 鴨居玲 私の話を聞いてくれ』　平成十七年／石川県立美術館 ほか

『鴨居玲展 没後二十五年 終わらない旅』平成二十二年／日動美術財団

『没後三〇年 鴨居玲展 踊り候え』　平成二十七年／日動美術財団

映像ギャラリー

11日の映像ギャラリーは、「没後30年 鴨居玲展 踊り候え」にあわせ、スペイン特集です。滞在は短期間でしたが、スペイン・バルデペーニャス村は鴨居にとって、生涯のテーマを獲得する重要な舞台となりました。また、18日は「いしかわ文化の日」。石川の文化財をご紹介します。

■映像ギャラリー　午後1時30分～　美術館ホール　入場無料

11日（日）	世界の美術館 プラド美術館Ⅰ	（54分）
18日（日）	シリーズいしかわの文化財《文化財・今に伝わる技術》	（21分）
	映画「九谷焼」	（22分）

ミュージアムウィーク

今年のミュージアムウィークのテーマは「いしかわの本物の文化の魅力」。今年四月に施行された「いしかわ文化振興条例」では十月第三日曜日を「いしかわ文化の日」に、そこから十一月三日（火・祝）までを「いしかわ文化推進期間」として定めました。「いしかわ文化推進期間」が今年のミュージアムウィークの期間となります。

今年も兼六園周辺の文化施設の各館で、すてきな催し物が目白押しの毎日です。皆さまのご来場をお待ちしております。詳細は行事予定、ミュージアムウィークのチラシをご覧下さい。

なお、十月十八日（日）「いしかわ文化の日」はコレクション展示室の入場が無料になります。

平成27年度

土曜講座のご案内

本年度の後半の土曜講座

本年度の土曜講座全二十九回の内、後半の十月三日からの土曜講座の予定です。自由テーマや展示に沿った内容のほか、今年の共通テーマである「館蔵品を中心にその魅力発信」に沿ったテーマで行います。申込不要・聴講無料です。どうぞお気軽にご参加下さい。

回	月日	内容(予定)	担当学芸員
第14回	10月3日	涅槃図のたのしみ	中澤菜見子
第15回	10月10日	鴨居玲と自画像	二木伸一郎
第16回	11月14日	石川の彫刻ー近代彫刻の歩みの中でー	北澤　寛
第17回	11月21日	金沢が生んだ美術批評家 坂井犀水(二)	西田　孝司
第18回	12月12日	十三代加賀藩主前田斉泰の能と能装束	村上　尚子
第19回	12月19日	石川の文化財(1)	谷口　出
第20回	1月9日	石川県の芸術院会員 人間国宝(1)	寺川　和子
第21回	1月16日	米沢弘安	中澤菜見子
第22回	1月23日	石川の文化財(2)	谷口　出
第23回	1月30日	石川県の芸術院会員 人間国宝(2)	寺川　和子
第24回	2月6日	重要文化財 西湖図	高嶋　清栄
第25回	2月13日	浮世絵いろいろ	村上　尚子
第26回	2月20日	久保田米遷と同時代の画家たち	前多　武志
第27回	2月27日	石川のやきもの	西田　孝司
第28回	3月5日	石川の戦争画	二木伸一郎
第29回	3月12日	吉田三郎 ー人と芸術ー	北澤　寛

十月の行事予定

■土曜講座　午後1時30分～ 美術館講義室　入場無料

3日(土)　「涅槃図のたのしみ」　学芸員　中澤菜見子

10日(土)　「鴨居玲と自画像」　普及課長 二木伸一郎

■映像ギャラリー　午後1時30分～ 美術館ホール　入場無料

11日(日)　世界の美術館 プラド美術館Ⅰ　(54分)

18日(日)　シリーズいしかわの文化財《文化財・今に伝わる技術》　(21分)

18日(日)　映画「九谷焼」　(22分)

■百万石の文化講座　午後1時30分～ 美術館ホール　聴講無料

11日(日)　第2講「芳春院まつ」石川県立図書館史料編纂室　瀬戸薫氏

■企画展関連行事　午後2時～ 美術館ロビー　入場無料

11日(日)　イ・スンジャ「望郷を歌う」　出演／李順子(イ・スンジャ)氏

毎週日曜日　ギャラリートーク　午前11時～ 一階企画展示室

■ミュージアムウィーク関連行事

19日(月)　ギャラリートーク鴨居玲展　午後3時～ 一階企画展示室

20日(火)　ギャラリートーク古美術　午後2時～ 二階コレクション展

21日(水)　ギャラリートーク近現代工芸　午後2時～ 二階コレクション展

22日(木)　ギャラリートーク近現代絵画彫刻　午後2時～ 二階コレクション展

24日(土)　午後1時30分～ 二階コレクション展示室・講義室(要申込)三〇〇円　手作りえのぐをつくろう　サクラクレパス 尾松武志氏

ミュージアムレポート

夏休みキッズプログラム

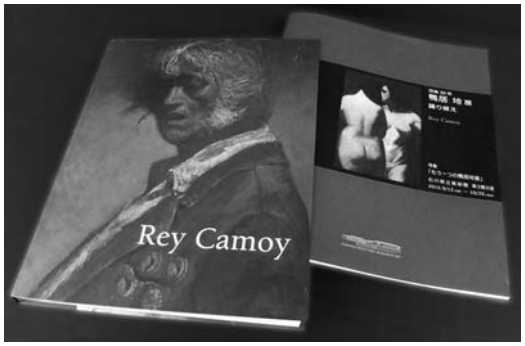
今年も夏休みに親子で美術館で楽しんでいただく制作体験三講座と、「夏休み 親子で楽しむ美術館」の展示室の鑑賞講座が行われました。

制作体験の低学年対象「絵の具大好き、みんなあつまれー」では、まだ、学校での絵の具の指導が始まっていない一年生を含めて、絵の具で描くのが大好きな子どもたちが集まりました。混色の約束やティッシュや綿棒、歯ブラシなど道具を使って描く方法も紹介し、虹をはじめ空の様子など思い思いの作品を何枚も仕上げました。高学年対象「石膏でメダルのレリーフをつくろう」では、最近では子どもたちには図工の時間でも馴染みの少ない石膏を使ったレリーフに挑戦しました。低い円柱状の石膏を彫刻刀を使って模様をほり出す活動で、彫刻刀の扱いに注意が必要でしたが、はじめて彫刻刀を扱った四年生を含め、けが人もなく作品を完成させることができました。全学年対象「ステンシル版画で暑中見舞いをつくろう」では、コレクション展示室で開催の「アート de 暑中見舞い」の展示にちなみ、手軽にできる版画を体験して頂く講座です。午前中はステンシル版画、午後はスチレン版画と二つの版画を体験できる盛りだくさんな内容でしたが、参加者のみなさんは最後まで意欲的に制作していました。

今年の「夏休み 親子で楽しむ美術館」のテーマは『アート de 暑中見舞い』。その鑑賞講座、「あなたも、アート de 暑中見舞い！」は、夏にちなんだ作品が並ぶ展示室を担当学芸員がご案内するプログラムで、七月二十六日開催の昼の部と八月八日開催の夕方の部の二回行われました。参加された方から、「一つ一つの作品をじっくり鑑賞し、想像したり記憶をたどったり発見することが、とても楽しいことがわかった」「子どもの作品を見る目線がとてもおもしろく、また、子どもたちと一緒に美術館に足を運びたい」など、日頃キッズプログラムの鑑賞講座で、私たちが大切にしたいことを伝えることができたと感じられる嬉しい感想を頂きました。

ミュージアムショップ通信

鴨居玲展も、残すところ一月足らずとなりました。十年ぶりの鴨居玲展とあって、図録をお求めになる方も多いようです。今回の図録はB5変形で五五〇グラム、一五〇ページ立てながら小形軽量の扱いやすいサイズになっています。さらに金沢会場のみの特典有り。二階第3展示室で併催中「もう一つの鴨居玲展」のオールカラー目録（通常販売価格一〇〇円）が無料でついてきます。作品だけでなく貴重資料の画像も掲載されています。売り切れ必至ですのでお早めにお求め下さい。



「鴨居玲展図録」「二〇〇円と「もう一つの鴨居玲展目録」（別途購入の場合一〇〇円）

アラカルト ただいま展示中

à la carte No.6

夏に想う なつにおもう

昭和58年(1983) 縦180.0×横94.5×奥行88.0cm 第8回日彫展日彫賞受賞

野畠耕之助 のばた・こうのすけ

昭和9年～(1934～)

麦藁帽子を被り短パン姿の青年が熱心にギターを奏でる像容です。

像は細長い台の上に坐る姿で表されます。「夏の夕暮れ、頬をなでる海辺の潮風、ギターの音色…」といったロケーションさえも空想させてくれる情感が篭もった作品で、観る者にも昔の夏の思い出をも蘇らせてくれるような雰囲気を漂わせています。肉付けが自然で、足から頭に至るまでの淀みない量の流れのなかにあって、爪先や下肢・腕と肘・ギターのネック・ヘッド、帽子の鍔など長くまた突出した部分が、全体の空間の中でベクトルとして緊張感を生むとともに、坐る像としてのバランスも利かせています。また下から四角張った台座から丸みを含むギターへ、さらに不定形の帽子へと脇役となる形が段階的に変化を見せ表情を和らげています。作者は金沢美大卒業。学校教諭を勤めながら日展を中心に作品発表を続けています。はじめは若い男性像をモチーフとして作品を発表してきましたが、近年では女性・子ども像なども含め広がりを見せています。制作においては、はじめは空間における人体の再構成と力強い量の繋がりを軸に、若い男性の健康美の表現を目標に制作を進めていましたが、近年では、多様な表現へと広がりを見せています。

次回の展覧会

会期：10月29日(木)～12月6日(日)

前田育徳会尊經閣文庫分館	第2展示室
四代藩主前田光高を偲ぶ	石川県の文化財

第3・6展示室	第4展示室	第5展示室	第7～9展示室
優品選	石川の近代彫刻をたずねて	明治大正期の工芸	第62回日本伝統工芸展

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　360円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(10月は5日)

今月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00 年中無休

10月の休館日
26日(月)～28日(水)

日本海の海の幸や加賀の美食なら
片山津温泉
加賀観光ホテル
〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時～20時
Tel.0761-74-1101

石川県立美術館だより
第384号〈毎月発行〉
2015年10月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町２番１号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/